

学校再開

－保健室とヘルメット－



【学校再開！】

ついに学校が再開しました(^O^)。広田中学校は20日に、小友中学校は23日に新入生を迎えました。震災によってとぎれてしまったあの日から、入学式を迎えるまでの、校長先生をはじめとする先生方や、関係機関のみなさまの計り知れない努力に、本当に頭が下がります。そして、ここから「おめでとうございます」の言葉を贈りたいと思います。

前回の支援の折(4/16)、津波で被災した中学校の校舎を案内してくださった加藤校長先生。泥と瓦礫で埋まった教室や、津波の時間で止まっている体育館の時計、ステージに今も残っている「卒業式」の吊り看板などを、本当に寂しそうに見つめていらっしやっただのが忘れられません。でも23日、入学式が終わった学校におじゃますると、「11人の新入生の名前を呼んであげることができました。」と目を潤ませてお話ししてくれました。

そして、学校の再開を心待ちにしていたのはもちろん子どもたちです。モビリア避難所の子どもたちも、学校再開に伴って、見かける子どもたちの数も減っていました。「勉強道具が家にあるから・・・」と残っている子どもが説明してくれました。人数は少なくとも、学校が始まった子どもたちには、以前よりも笑顔が多かったようです。学校から戻ってきた中学生も、部活スタイルで大きなバックを持って・・・と、やっと日常に戻るきっかけをつかんだように見えました。子どもたちの笑顔を求めて、再開した学校への支援をこれからも続けていきたいと思えます。

【保健室とヘルメット】

今回の支援の中心は、学校再開にあたって必要な物品の提供でした。小友小中学校には、保健室のベッドや布団、毛布や消毒薬など、それこそ「保健室一式」に近い品物を運びました。これらの物品は、長野西高等学校中条校から提供されたものです。生徒の減少から分校になり、廃棄する保健室用品(けっこう新しい)について、教頭先生が再利用を快く承諾してくださり、養護の先生がこまごまと必要品を調べてくださいました。21日(木)夕刻、神奈川より乗り付けたレンタカーのワゴンに中条校で積み込み、金曜日には陸前高田へ向かうというハードスケジュールで、保健室の品々は、およそ900kmの旅をして届けられました。



小友小学校は一階部分が流され、保健室も何も残らない状態でした。やっと掃除して、部屋は使えるようになって消毒薬すらありません。子どもたちが学校で安心できる場所のひとつが保健室であることは間違いありません。空っぽの保健室ではやはり寂しいものがあります。

あいにくの雨天でしたが、校長先生の呼びかけでほとんどの先生が総出で手伝ってくださいました。養護の佐藤先生の「うれしー！」という大きな声に、私たちの疲れも吹き飛びました。

広田小中学校には、印刷で使う紙や色画用紙などの消耗品と、自転車通学で使用するヘルメット33個をお届けしました。一週間前に大森副校長先生とお話ししたとき、「自転車は何とか30台集めたのだけれど、ヘルメットがなくてどうしようかと思っているんです。校則で決まってもいるし、実際にヘルメットがないと危ないし・・・」とおっしゃっていたからです。当日はお会いできなかった吉家校長先生より月曜日にお電話があり、丁寧なお礼のお言葉をいただきました。よろこんでいただけましたようです。

【復旧⇒ニーズの変化⇒ボランティアのあり方】

高田市内をはじめとして、瓦礫撤去が急ピッチで進んでいるようです。重機で瓦礫が集められ、少しずつ地面が見えるようになりました。広田口も道がつけられ始めました。小友小中学校にも電気が通りました。こうした復旧に向けての必死な取り組みの中で、外部からの支援者である私たちが考えなければいけないいくつかのことが浮かび上がっています。



①ニーズの変化について行くこと

支援通信の前号(No3)でお伝えした中に、トイレと飲み水の件がありました。この一週間、事務局を中心に行政や業者と対応する中で、ある程度のめどを立てておじやましたのですが、校長先生のお話では、5月中に小友小中学校でも屋上タンクの対応で水が確保できそうだとのこと。これが実現すれば、トイレも飲み水の問題も解決しそうです。通学のためのバスもめどが立ったということでした。また、これは残念な話ですが、小友小学校のグラウンドが自衛隊の重機置き場になることが決まり、部活動や体育での使用が難しくなったそうです。一週間でこれだけ状況が変化していました。

復旧の濃淡はあるものの、確実にそのスピードを増しているように感じます。それにあわせて、支援に対するニーズも大きく変化しています。これからは、復旧の実態に寄り添いながら、現場の要求を丁寧にくみ取ることが必要です。ひょっとしたら、爪切りひとつかもしれない現場のニーズに、迅速に対応できるシステムが求められています。

陸前高田市教育委員会のホームページも立ち上がったようです。これから委員会との連携が実現するならば、無駄のない支援ができるのではないのでしょうか。

②ボランティアのあり方

広田小中学校に支援物資を届けに行ったときのことで。昇降口に車を止めると、上から大きな声がふってきました。「おまえたち、なにしにきたんだ！」外階段の踊り場

にいた地元の男性の声でした。事情を簡単に説明すると、態度は優しく変化して、「それはありがとうね。」とお礼まで言われました。

避難所になっている広田小中学校には多くの人が入り出ています。きっと、「招かれざるボランティア」も多く訪れることでしょう。モビリア避難所にしても、責任者の千田さんと蒲生支配人は、ひっきりなしに訪れるボランティアの対応にてんてこ舞いの状態です。「寝る場所を提供して欲しい・ボランティアとしてなにかお手伝いすることはないか」という申し出の一つ一つを丁寧にお断りしている状態のようです。市役所が流され、行政機能が極端に縮小している陸前高田だけに、直接避難所を訪れるボランティアが多いようです。

復旧に伴って、ボランティアはますます増えています。善意の押しつけにならない「支援」を見極めていく力が、ボランティア側には求められています。

蒲生支配人があきれたようにつぶやきました。「この前来たボランティアが置いていったんだけど、子どもたちは見向きもしないし、始末するわけにもいかないし、これどうしたらいいの？」見ると、大きなプラスチックケースに入ったカブトムシの幼虫たちでした。（ちなみに、これはいただいて、神奈川で育てることとなりました。）

【すたんどばいみーによる子ども支援】

先週は「カゴづくり」など、1日半、思いっきり遊んだのですが、避難所の大人達から、「少しは勉強も入れて欲しい」という要望がありました。また、今回は小友小中学校の入学式と重なり、中学生がモビリア避難所に戻ってきたのが3時過ぎだったので、ほとんどは小学生への支援になりました。「勉強させて欲しい」という声は、学校再開という状況の変化とともに、毎週来る“すたんどばいみー”だからこそその期待だと思いました。

土曜日は雨だったので、室内でカルタや算数セット、ジェスチャーゲームなどをしました。すぐ飽きてしまうこともあります。ジェスチャーゲームなどは楽しそうでした。勉強は、みんな「嫌い」と言って、イスにじっと座っていることができませんでした。雨の日の室内ゲームや学習教材の準備が必要です。

印象的だったのは、「ゴリラ今日はこないの？デブちゃんはどうしたの？」と以前にきたメンバーのことを子どもたちが聞いていたことです。なによりも、「毎週やってくる」ことが、支援の基本なのだと思います。子どもたちはこれから毎朝7時のバスで学校に向かい、夕方4時過ぎのバスで戻ってきます。学校での時間の使い方も一緒に考えていきたいと思います。

【今後の支援の予定】 4月17日現在

■4月30日～5月1日（29日夜発）の第5回支援

○ニーズの聞き取りシステム構築

小友小中学校 広田小中学校 教育委員会

○小友小中学校保健室 ソファ・冷蔵庫搬入

■5月7日～8日（6日夜発）の第6回支援 内容未定

【ご協力いただきたいこと】

1. ご提供いただきたい物資

■提供物資 ニーズ調整のシステム構築中です。しばらくお待ちください。

■支援のための必要物資

○イベントの必需品（テント・軽い折りたたみ椅子）

○業務用ワゴンを、金曜夜から日曜夜まで貸して下さる方

※ご提供いただけそうな方はご一報ください。

2. 同行していただける方

金曜日の夜8時大和市付近を出発、帰りは日曜日の夜8時の予定です。

※参加可能な週末をお知らせください。

【ご協力に感謝!!】

■今回の支援隊のメンバー（7人） 柿本隆夫（引地台中学校）、松永雅文（下福田中学校）、池田喬（南林間中学校）、福島良彦（引地台中学校）、相原康人（引地台中学校）すたんどばいみー：宮脇英理・劉麗鳳

■小友小中学校

○提供された物資による支援：保健室設置用品一式、部活用品、文具類、コーヒー

○寄付からの買い出しによる支援：色上質紙、色画用紙、ジャージ

■広田小中学校

○寄付からの買い出しによる支援：

自転車ヘルメット 33個、コピー用紙、色上質紙、色画用紙、

■モビリア避難所

○すたんどばいみーからの支援：前回撮影の子どもたちの写真のパネル

■ご協力いただいたみなさま（敬称略、順不同、物資・寄付を含む）4/16～4/22

清水麻美（長野西高等学校中条校）、笠井武（笠井薬局）、五丸屋スポーツ、田名スポーツ、モアススポーツ、ミズノ渡辺、スポーツショップアイリス、つるりん、志澤みのり（大和中学校3年）、片岡明日香（大和中学校3年）、小嶋博（大和中学校）、脇坂真弥（東京理科大学）、黒井尚子（大和中学校）、羽生加代子（大和中学校）、額賀美紗子（和光大学）、山田哲也（一橋大学）、日比和子（光丘中学校）、引地台中学校職員、松口友也（ヨネックス）、清水寛（屋代高校）、清水いく江、鍛代俊夫（青少年相談室）、鍛代美幸（大和中学校）、金命貞（首都大学東京）、丸源自動車

今後の継続的な支援の活動のために広く寄付を募っております。

横浜銀行 中央林間支店 普通6018180

Ed.ベンチャー東日本大震災支援（Edベンチャーヒガシニホンダイシンサイシエン）

NPO 法人教育支援グループ Ed.ベンチャー

〒242-0007 大和市中中央林間 3-16-12-107

Tel/Fax:046-272-8980 e-mail: toiwase@edventure.jp

